

スーパーマーケット景気動向調査

2019年10月調査結果（9月実績）
（2019年10月23日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

10月調査（9月実績）結果概況

景気判断DI 現状判断は小幅に改善

9月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は、前月から+2.5の43.0、見通し判断は前月から+1.5の38.0となり、共に小幅な改善をみせた。

経営動向調査では、売上高DI、収益DI共に前月に比べマイナス幅を縮小した。月の後半になって、消費税率引き上げ前の駆け込み需要が非食品カテゴリーを中心に発生、酒類など一般食品の一部でもみられたこと、併せて台風15号の接近・上陸前後の買い置き、被災地での特需が影響した。

カテゴリー動向調査では、駆け込み需要があった非食品DIが13.3と大幅なプラスとなったほか、一般食品DIもプラスを記録した。前年から比べ相場が安定しており、また高い気温により秋物商戦が不振となっており、青果DIや畜産DIは二桁のマイナスとなった。サンマの記録的不漁の影響を受けた水産DIも低迷した。好天の日が多かった恩恵もあり、惣菜カテゴリーはプラスとなっている。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は、現状判断でやや改善しているが、見通し判断は翌月の税率引き上げを控え、わずかな改善にとどまっている。（長期傾向についてはp11参照）

小売側の増税前セールの実施や、軽減税率制度への理解不足などの影響で、税率が据え置かれる食品の一部にも駆け込みと思われる動きがみられた。キャッシュレスポイント還元制度などの負担軽減策に対する消費者の反応も不透明であり、今後の消費動向に対する警戒感が高い状況が続いている。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月： 43.0 (+2.5) 前月：40.5	消費者購買意欲DI 当月： 45.3 (+5.1) 前月：40.2	周辺地域 競合状況DI 当月： 40.4 (+1.8) 前月：38.6	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 43.1 (+1.1) 前月：42.0
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月： 38.0 (+1.5) 前月：36.5	消費者購買意欲DI 当月： 37.8 (+0.6) 前月：37.2	周辺地域 競合状況DI 当月： 37.5 (-0.9) 前月：38.4	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 40.5 (+0.7) 前月：39.8
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月： -6.8 (+6.5) 前月：-13.3	客単価DI 当月： -4.4 (-4.7) 前月：0.3	来客数DI 当月： -6.5 (+8.6) 前月：-15.1	
収益DI 当月： -8.0 (-0.9) 前月：-7.1	販売価格DI 当月： 2.5 (+1.4) 前月：1.1	生鮮品仕入原価DI 当月： 1.2 (+1.9) 前月：-0.7	食品仕入原価DI 当月： 5.9 (+2.6) 前月：3.3

カテゴリー動向

青果DI 当月： -14.7 (+7.6) 前月：-22.3	水産DI 当月： -7.5 (-3.8) 前月：-3.7	畜産DI 当月： -15.5 (-8.7) 前月：-6.8	
惣菜DI 当月： 4.0 (+8.1) 前月：-4.1	日配DI 当月： -8.8 (+0.2) 前月：-9.0	一般食品DI 当月： 3.2 (+8.8) 前月：-5.6	非食品DI 当月： 13.3 (+18.4) 前月：-5.1

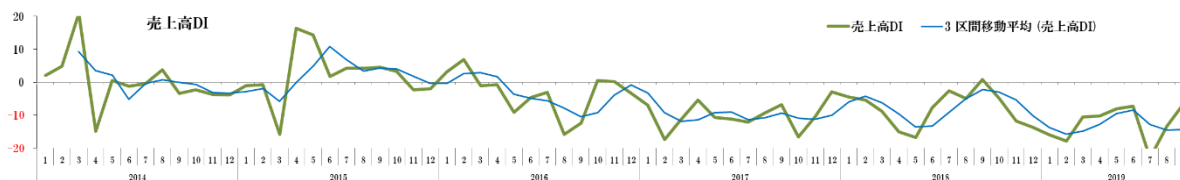
※DI 値は前年同月との比較 / () 内は前月DI からの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

マイナス幅をやや縮小

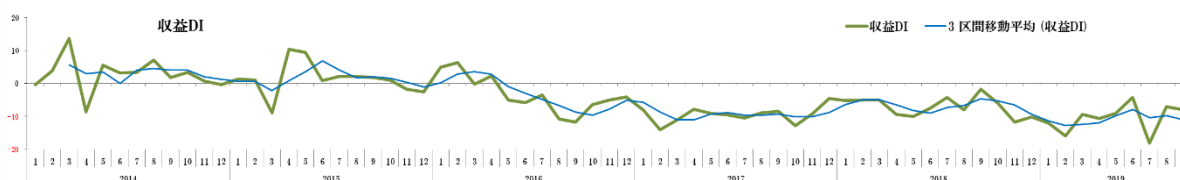
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	16.7	39.7	25.0	17.3	1.3	-13.3
売上高 (当月)	13.5	33.8	24.3	23.0	5.4	-6.8



2. 収益DI

前月水準のマイナス圏で推移

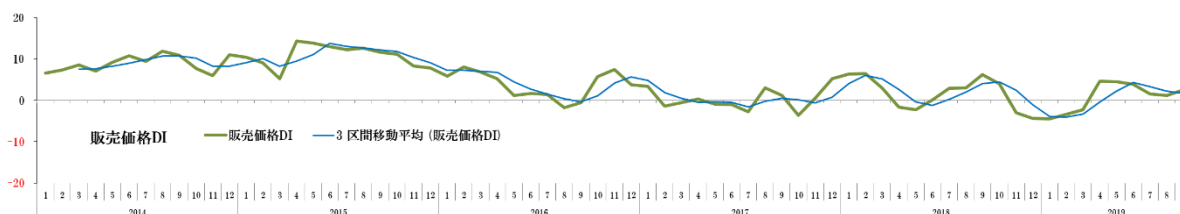
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	12.5	34.2	28.3	19.1	5.9	-7.1
収益 (当月)	14.6	30.6	31.3	19.4	4.2	-8.0



3. 販売価格DI

わずかながらプラス水準を維持

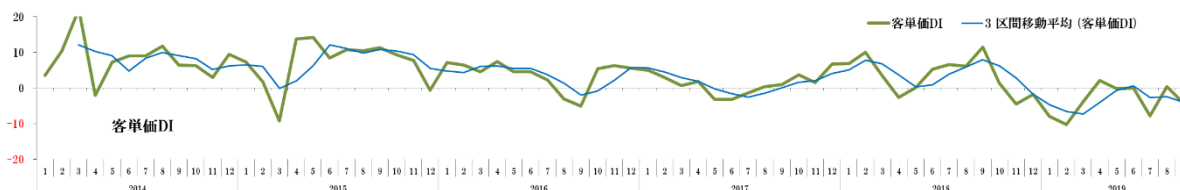
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	18.7	58.7	21.9	0.6	1.1
販売価格 (当月)	0.0	14.2	61.5	24.3	0.0	2.5



4. 客単価DI

再びマイナス圏へ

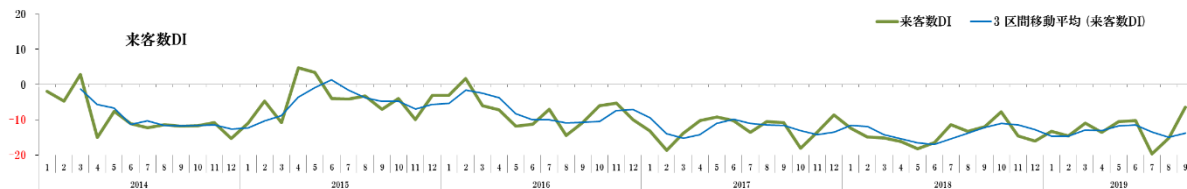
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	2.5	22.3	46.5	28.7	0.0	0.3
客単価 (当月)	3.4	29.9	47.6	19.0	0.0	-4.4



5. 来客数 DI

マイナス幅をやや縮小

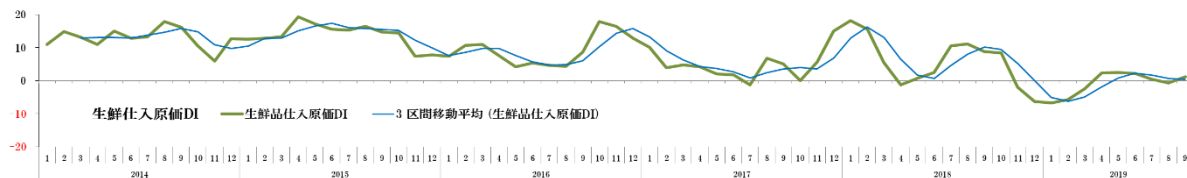
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	14.0	47.1	25.5	12.1	1.3	-15.1
来客数 (当月)	10.3	34.2	30.8	20.5	4.1	-6.5



6. 生鮮仕入原価 DI

わずかなプラス圏

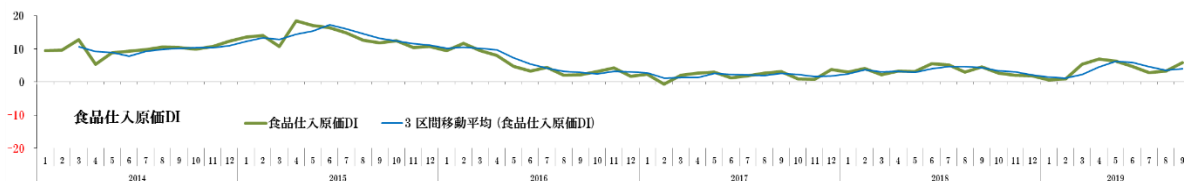
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	2.7	20.7	54.0	22.0	0.7	-0.7
生鮮仕入原価 (当月)	4.2	15.3	52.8	27.1	0.7	1.2



7. 食品仕入原価 DI

プラス圏で底堅い推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.0	11.3	61.6	21.9	3.3	3.3
食品仕入原価 (当月)	2.1	7.6	59.3	26.9	4.1	5.9

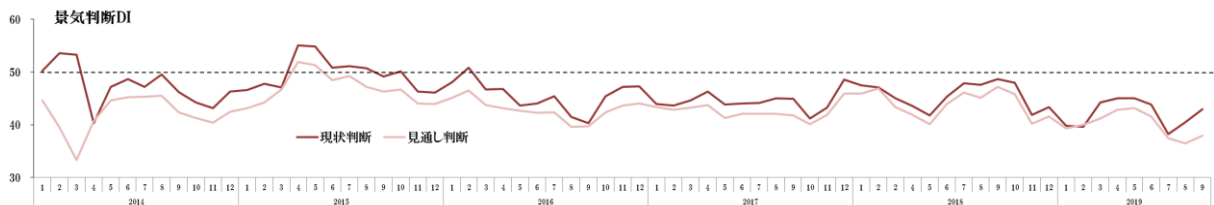


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状、見通しともやや改善

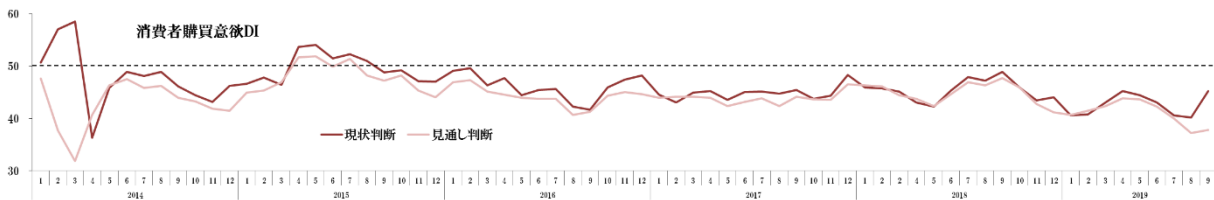
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	5.7	32.3	56.3	5.7	0.0	40.5
【現状】景況判断 (当月)	6.0	30.2	51.0	11.4	1.3	43.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	7.6	43.3	44.6	4.5	0.0	36.5
【見通し】景況判断 (当月)	7.4	41.2	43.2	8.1	0.0	38.0



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は大きく改善も、見通し判断は横ばい

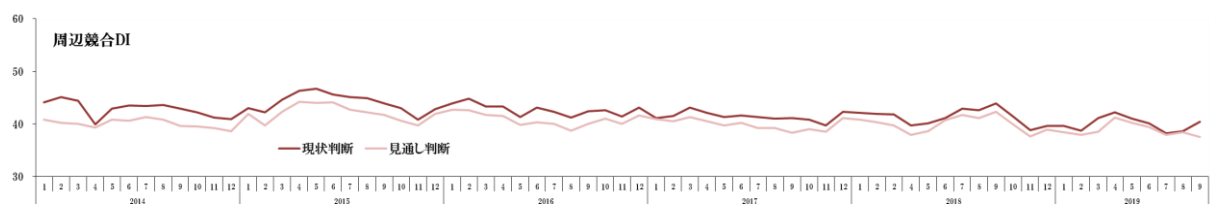
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	4.4	36.1	53.8	5.7	0.0	40.2
【現状】購買意欲 (当月)	4.0	28.2	52.3	13.4	2.0	45.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	5.7	42.4	49.4	2.5	0.0	37.2
【見通し】購買意欲 (当月)	6.8	41.9	45.3	5.4	0.7	37.8



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断は小幅に改善も、見通し判断は小幅に悪化

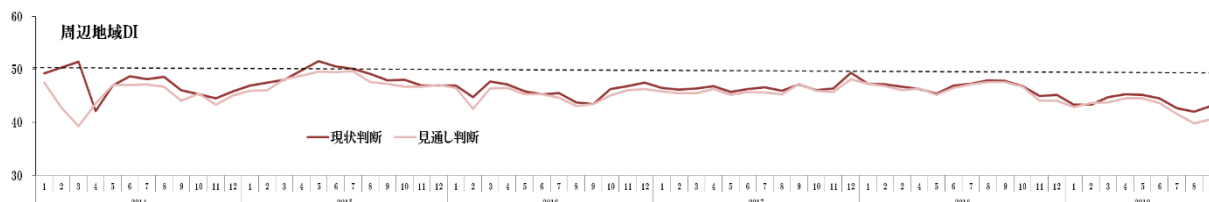
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	6.3	34.8	57.0	1.9	0.0	38.6
【現状】競合状況 (当月)	9.4	24.2	61.7	4.7	0.0	40.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	5.1	38.0	55.1	1.9	0.0	38.4
【見通し】競合状況 (当月)	9.6	34.9	51.4	4.1	0.0	37.5



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状、見通しともに小幅に改善

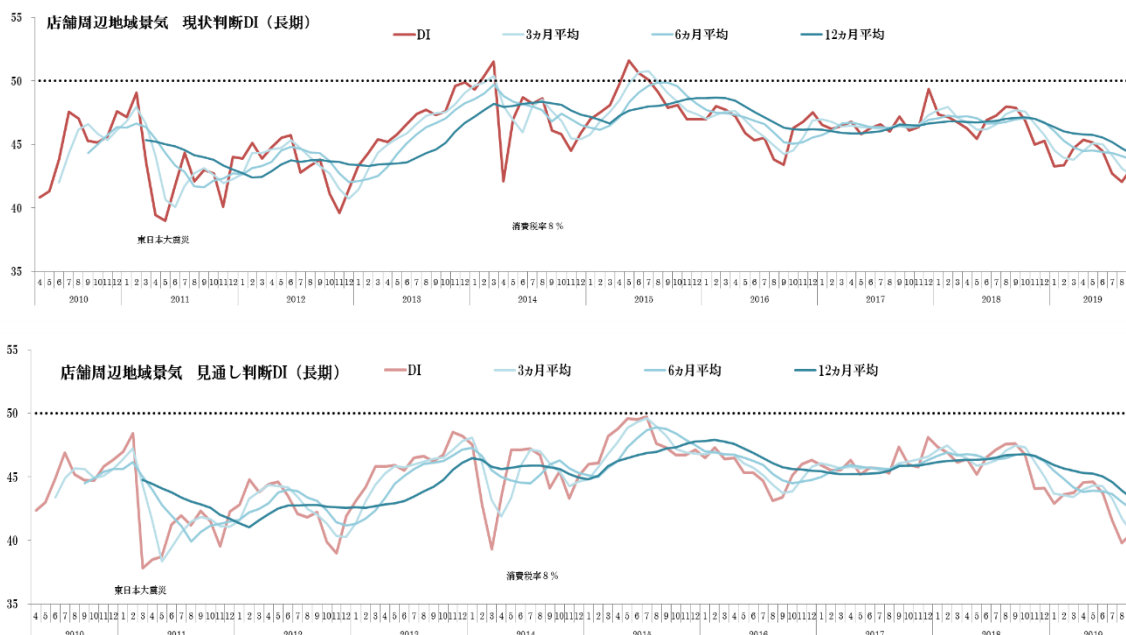
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	1.3	29.9	68.2	0.6	0.0	42.0
【現状】地域景気 (当月)	3.4	24.8	67.8	4.0	0.0	43.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	3.2	35.7	59.9	1.3	0.0	39.8
【見通し】地域景気 (当月)	4.1	33.1	59.5	3.4	0.0	40.5



・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

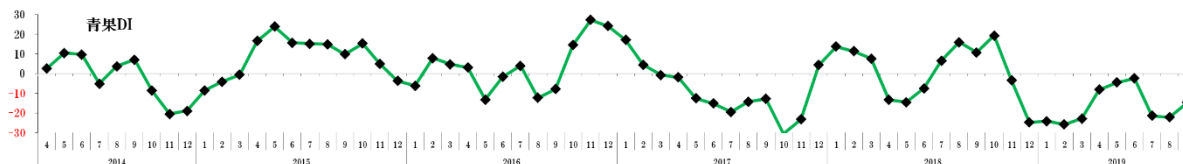
しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年8月には現状判断DIは42.0まで低下した。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-14.7（不調）

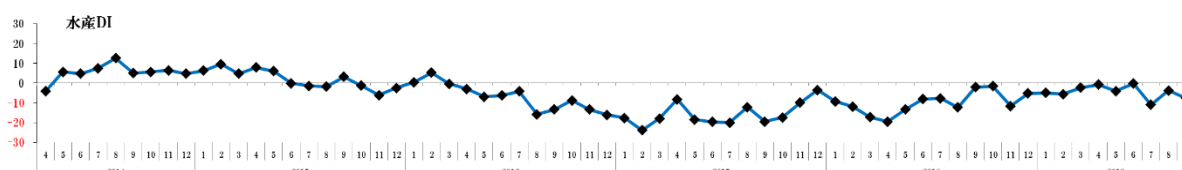
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果(前月)	28.4	44.6	15.5	10.8	0.7	-22.3
青果(当月)	18.9	38.5	27.3	13.3	2.1	-14.7



前年は猛暑や台風被害などの影響で野菜相場が高騰しており、今年は反動により単価が下落し不調となった。月を通じて気温が高く、葉物や根菜類、キノコ類などの鍋用野菜の動きが悪かった。サラダ関連は好調だが、トマト類の相場下落が影響し伸び悩んだ。果物類では相場高、入荷不足傾向にあるなか、シャインマスカットや梨の動きがよかった。輸入果物ではキウイフルーツを好調とする店舗がみられた。

2. 水産DI：-7.5（やや不調）

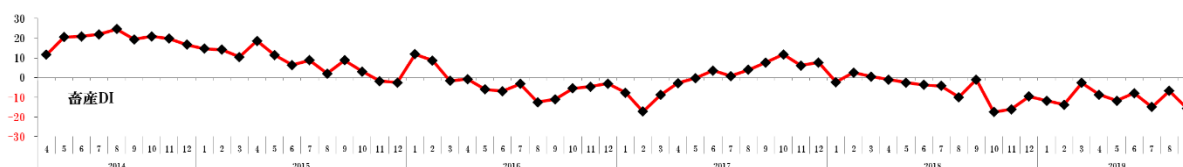
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産(前月)	8.1	31.1	33.1	23.0	4.7	-3.7
水産(当月)	13.3	28.7	37.1	16.8	4.2	-7.5



旬のサンマは前年やや漁獲量が回復、相場が低下したことで大幅な売上増となったが、今年は記録的な不漁となり大きく売上を落とした。イカの不漁の影響も続いているため、代わって秋鮭や筋子に力をいれた店舗が多く、好調となった店舗もみられた。刺身類は好不調の判断がわかれている。

3. 畜産DI：-15.5（不調）

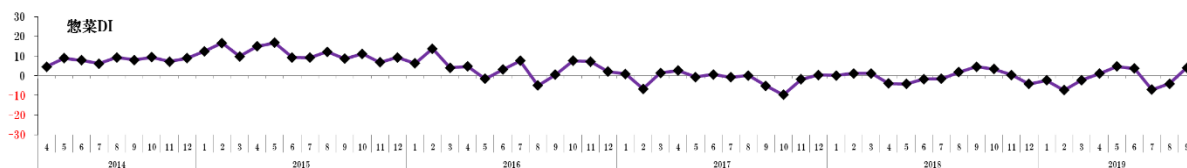
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産(前月)	11.5	33.8	28.4	23.0	3.4	-6.8
畜産(当月)	21.8	33.1	31.0	13.4	0.7	-15.5



牛肉は、前年より気温が高くステーキ・焼肉用などの動きがよかった。連休や週末などは、ブランド牛、それ以外は輸入牛の動きがよかった。豚肉は豚コレラの影響で相場が上昇、ホットメニューの減少により不調となった。鶏肉は、販売数量自体は伸びているものの、相場安傾向となっており伸び悩んだ。加工肉の売上回復傾向を指摘するコメントもみられた。

4. 惣菜DI：4.0（やや好調）

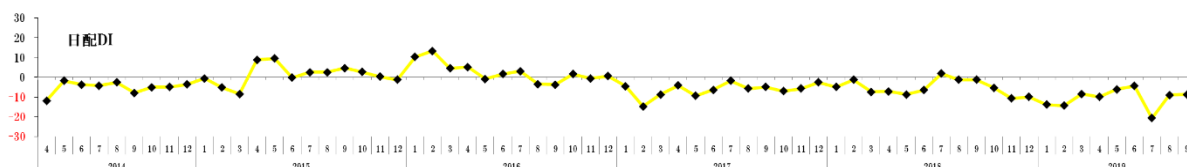
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	7.4	35.8	28.4	22.3	6.1	-4.1
惣菜（当月）	7.7	17.6	34.5	31.0	9.2	4.0



高い気温により、おつまみメニューの動きがよかった。好天に恵まれた地域では、行楽需要の高まりで米飯類が恩恵を受けた。一方でホットメニューや寿司類は伸び悩んだ店舗が多かった。新メニュー開発や売場改善などが成果をあげている一方で、メニューのマンネリ化を課題にあげる店舗もみられた。

5. 日配DI：-8.8（やや不調）

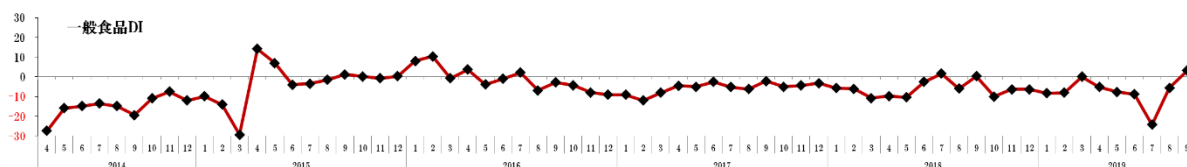
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	12.2	34.7	32.7	17.7	2.7	-9.0
日配（当月）	14.1	29.6	36.6	16.9	2.8	-8.8



高い気温によりアイス、飲料は好調となったが、おでん関連や麺類などホット商材が不調となった。そのため前年好調だった納豆や梅干し、漬物（キムチ）などの反動減もみられた和日配カテゴリーが厳しい結果に。一方で、前年仕入れが不安定だった牛乳をはじめとする乳製品は好調となった。パン類では一部に台風15号の接近による買いだめ需要がみられた地域もあった。

6. 一般食品：3.2（やや好調）

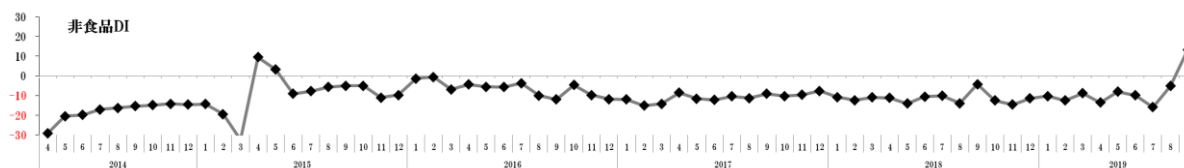
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	8.8	32.0	34.0	23.1	2.0	-5.6
一般食品（当月）	6.3	23.9	31.7	26.8	11.3	3.2



酒類、みりんや医薬部外品の飲料には税率引き上げ前の駆け込み需要がみられた。なぜか米類にも駆け込み需要があったとのコメントがみられた。高い気温により、飲料などの夏物商材が好調となった一方で、カレーやシチュー、スープなどホット商材などは不調となった。台風15号接近前の買いだめ需要、被災地での特需が発生した店舗がみられた。値上げのため低迷していたインスタント麺類も買いだめ需要で売上の回復がみられた。高い気温の影響か、菓子類を不調とするコメントが多くみられた。

7. 非食品 DI : 13.3 (好調)

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品 (前月)	10.6	30.3	33.1	21.1	4.9	-5.1
非食品 (当月)	6.5	13.7	26.6	26.6	26.6	13.3



税率引き上げ前の駆け込み需要による日用雑貨品は総じて好調となった。台風 15 号の接近・上陸後の被害による特需も発生している。たばこは、前年値上げの仮需が発生した反動で伸び悩んだ。好天に恵まれた地域では、運動会・行楽関連商品の動きがよかった。ホームセンターやドラッグストアなどの競合が厳しいとのコメントがみられた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20 好調： 20 ～ 10 やや好調： 10 ～ 0
 やや不調： 0 ～ -10 不調： -10 ～ -20 かなり不調： -20～

2019 年 10 月調査 (9 月実績) キーワード TOP3

1. 高い気温
2. さんまの不漁
3. 駆け込み需要

(参考) 2018 年 10 月調査 (9 月実績) キーワード TOP3

1. 土日が一回多い
2. 青果相場高
3. 地震と台風の影響

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

9 月実績速報版 149 社
 8 月実績確報版 158 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp